

# 大学教育を巡る諸課題の日仏比較



1. 日仏大学(高等教育)制度の違い
2. フランスの大学教育を巡る課題
3. 取られている対応策
4. 考察と示唆

大場 淳

広島大学高等教育研究開発センター  
oba@hiroshima-u.ac.jp

<http://home.hiroshima-u.ac.jp/oba/>

# 1. 日仏大学(高等教育)制度の違い

- 高大接続

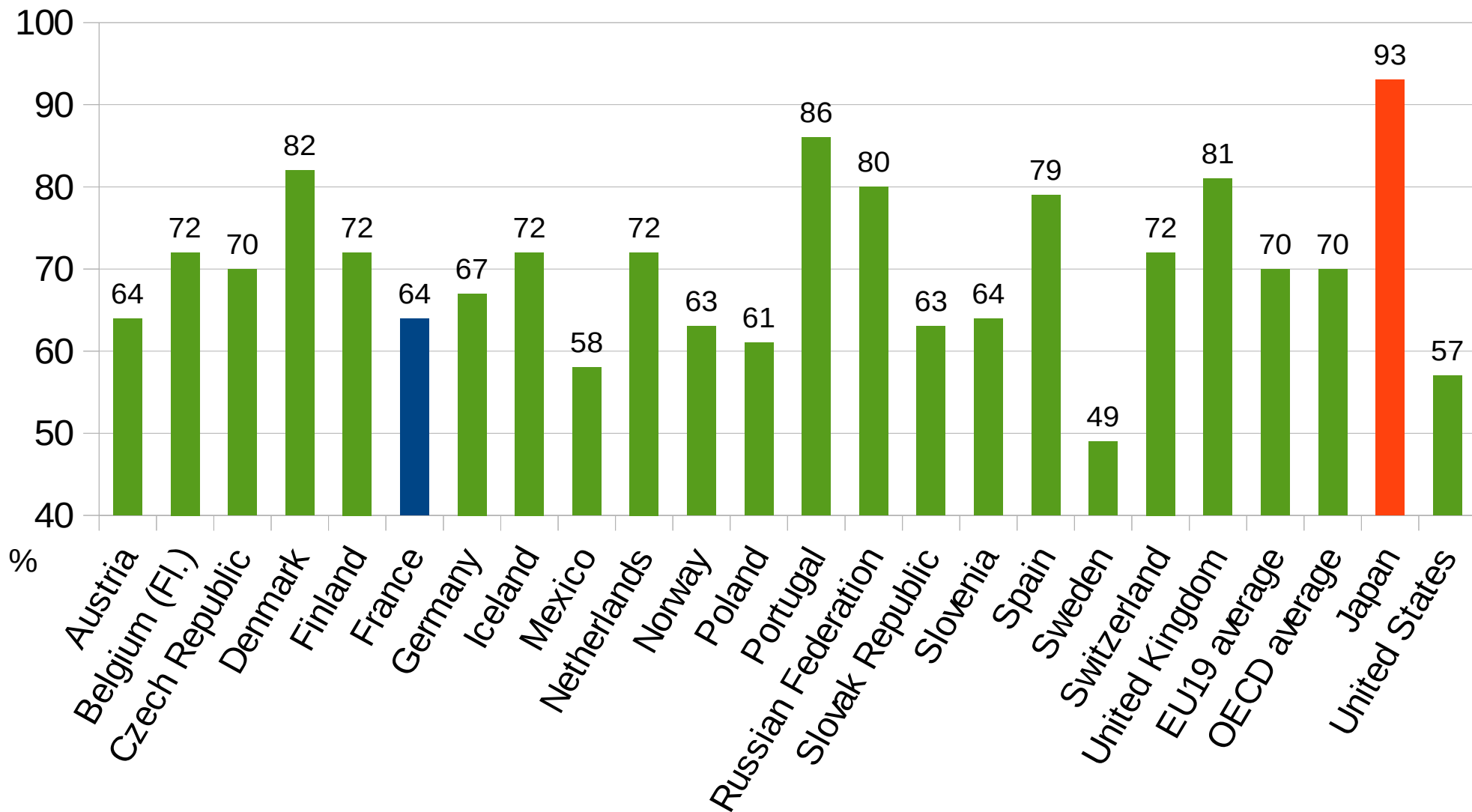
- 日: 入試による選抜、進学率は6割弱
- 仏: バカロレア合格者を対象としたAPB (Admission Post Bac = 進路選択システム) による振り分け、進学率は5割強

- 学生数: 日本は減少、フランスは増加

- 機関種

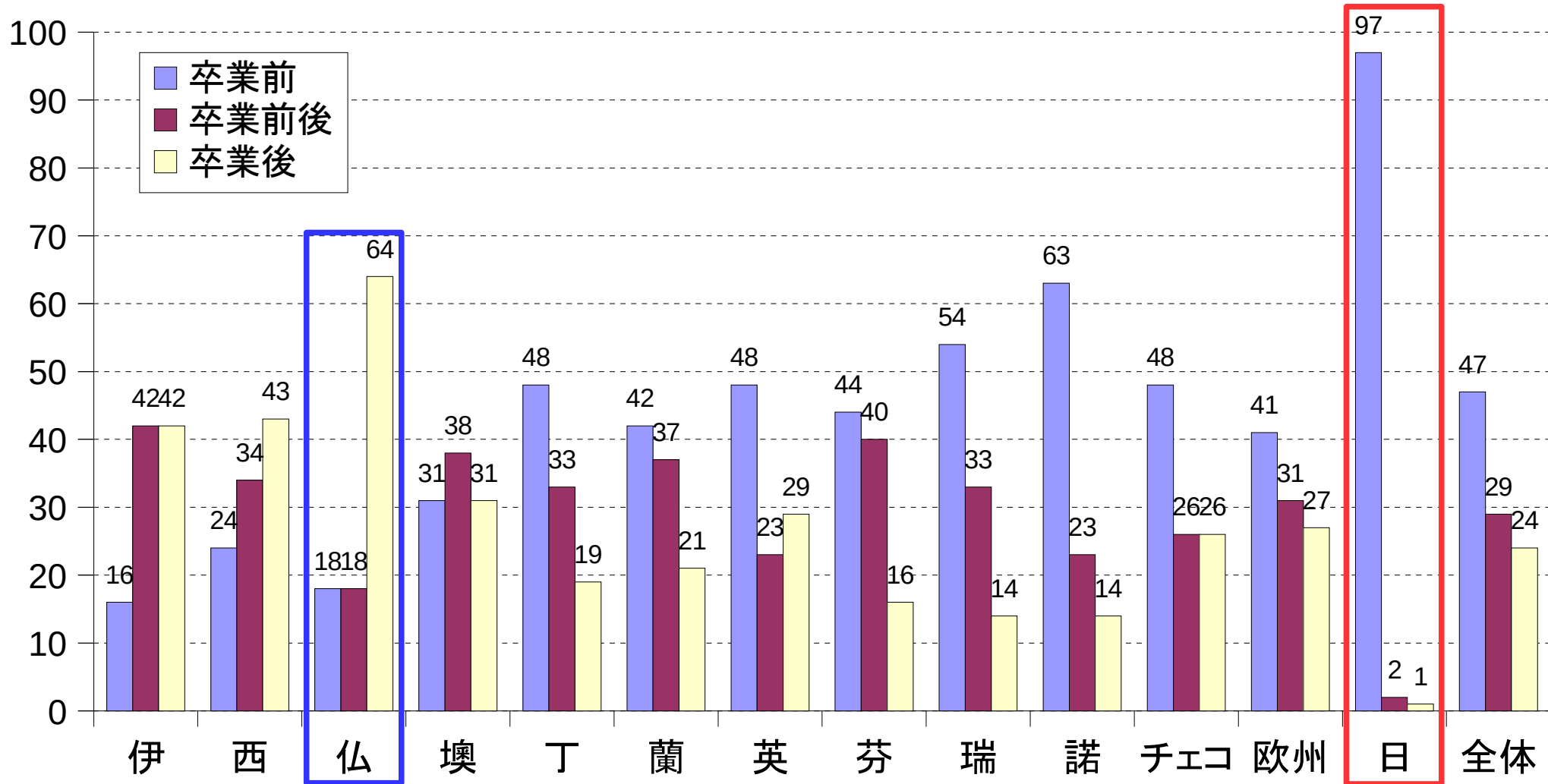
- 日本: 殆ど4年制大学(国公立)、その他短大、高専、専修学校
- フランス: 大学(全て国立)への進学者は2/3程度、その他に多様な高等教育機関、その中に(大学より)威信の高いグランド・ゼコール

- 費用等
  - 学生納付金
    - 日:(比較的)高額、国立でも535,800円(初年度は別途入学金282,000円)
    - 仏:ほぼ無償、登録料として学士課程184ユーロ
  - 奨学金:日本は貸与、フランスは付与
- 教育課程
  - 修学期間
    - 日:学士4年、修士2年、博士3年
    - 仏:学士3年、修士2年、博士3年
  - 学位取得:日本の取得率が高い、フランスは低い
- 労働市場との接続
  - 日:学位取得前に就職活動、内定獲得
  - 仏:概ね学位取得後に就職活動



学位を取得して学士課程を修了する者の割合（2000年前後の数値の比較）

出典：OECD

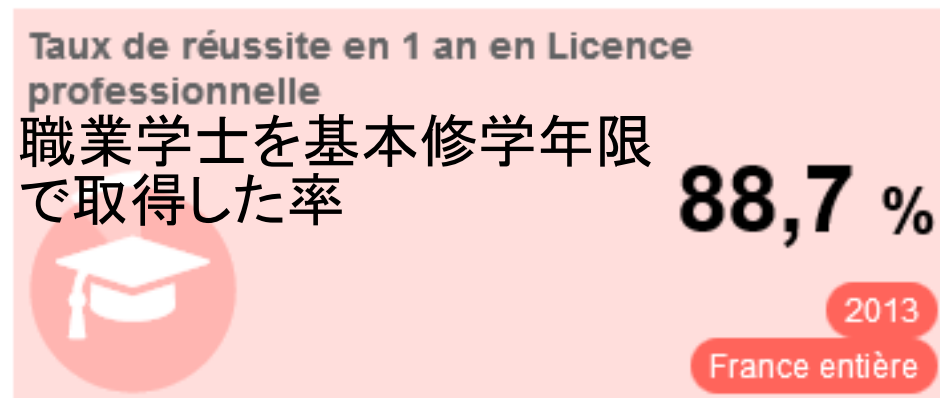
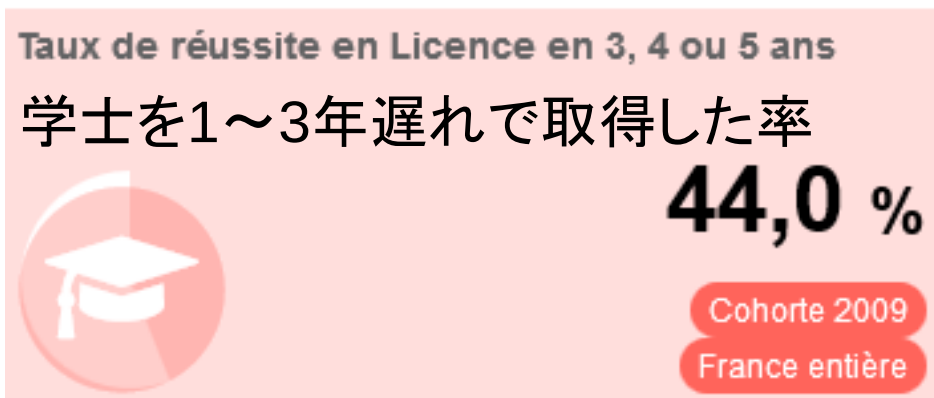
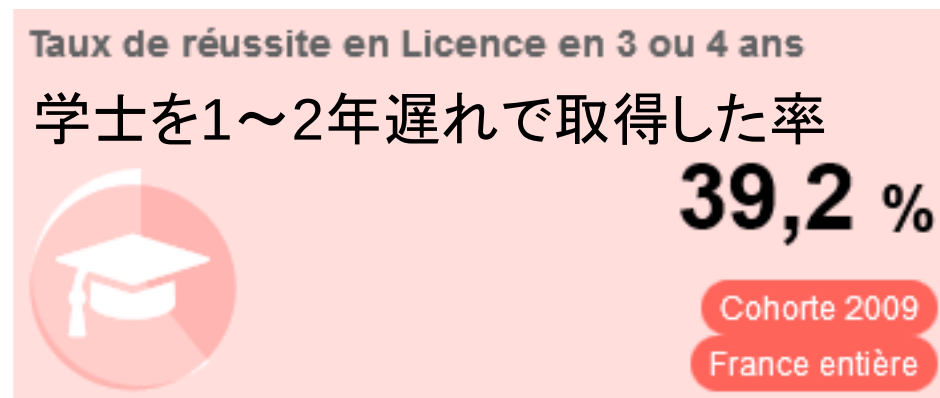
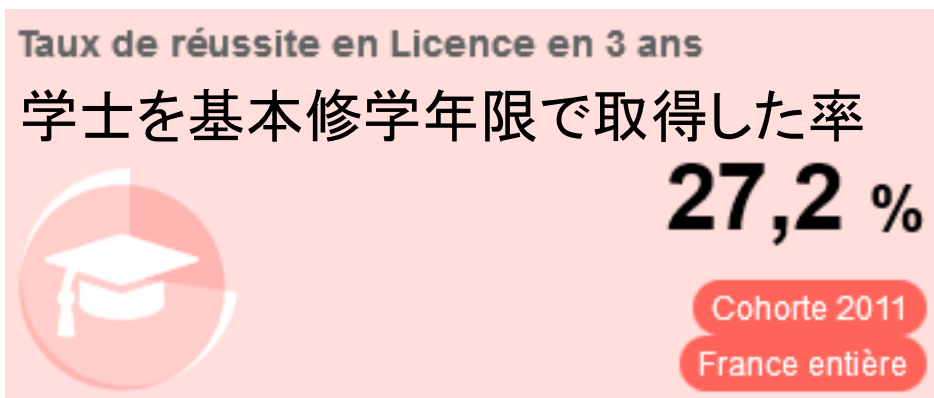


就職活動開始時期(1994-1995年度卒業生、%)

Higher Education and Graduate Employment in Europe (TSER EGS-SOE2-CT97-2023)

## 2. フランスの大学教育を巡る課題

- 学業不振
  - 高い留年・退学率
  - 歴代の政権が大学教育の重要課題として認識



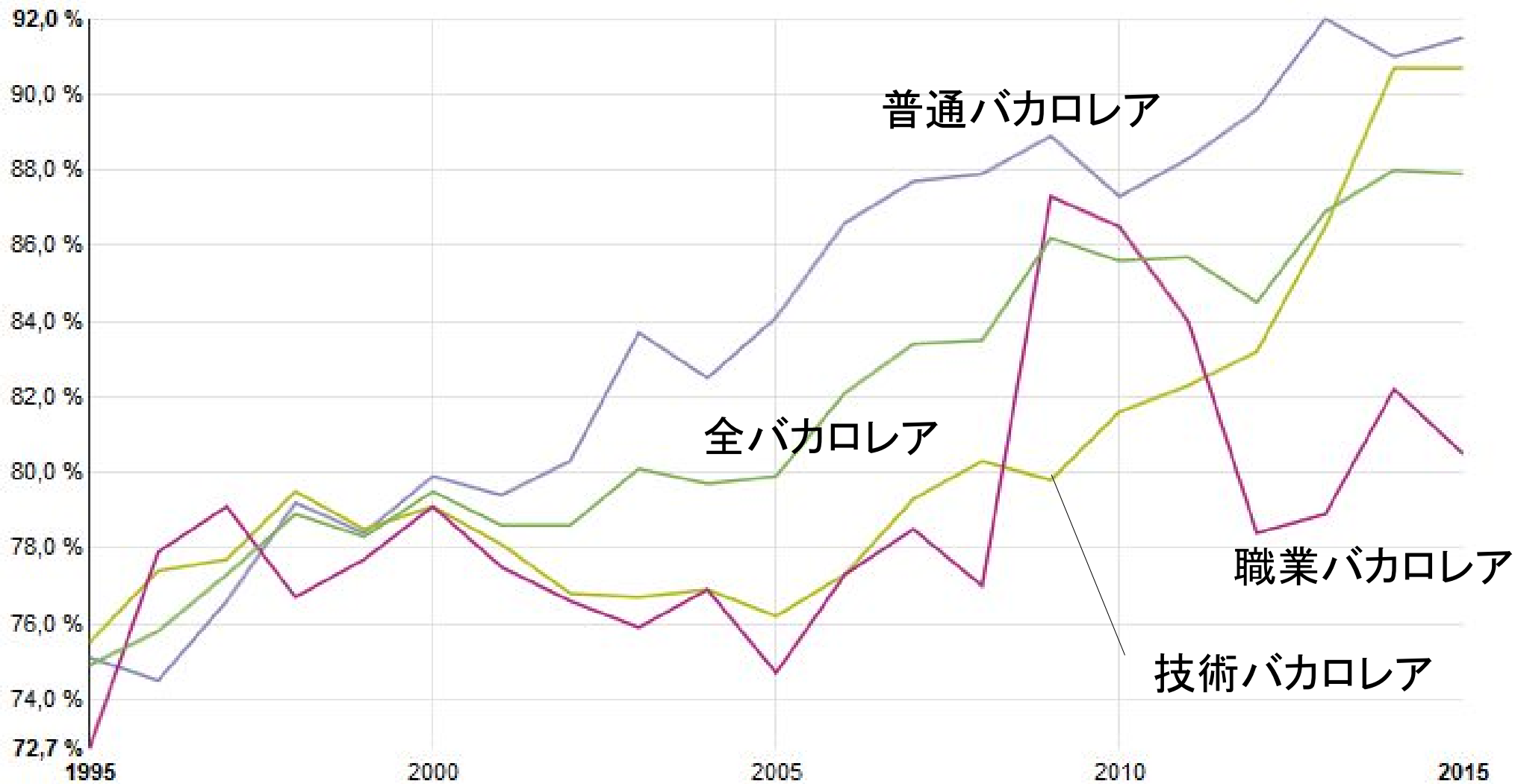
- 指摘される学業不振の背景
  - 高等教育の大衆化(進学率の増大)
    - バカロレア合格率増加に伴う「学力低下」?
  - 不適切な進路選択
  - 多様化した学生に見合わない授業内容や教授法
  - 学習支援の欠如
  - 厳しい成績評価

-----

  - 進路の変更
  - 経済的な問題や就職
  - 社会・文化的な問題
    - 少ない家庭内の文化資本
    - 限定的な流動性(rapport collectif = S. Orange)



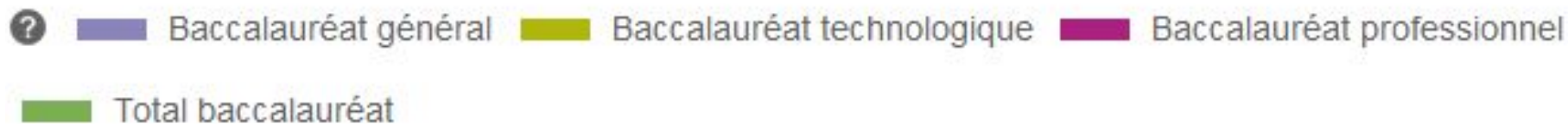
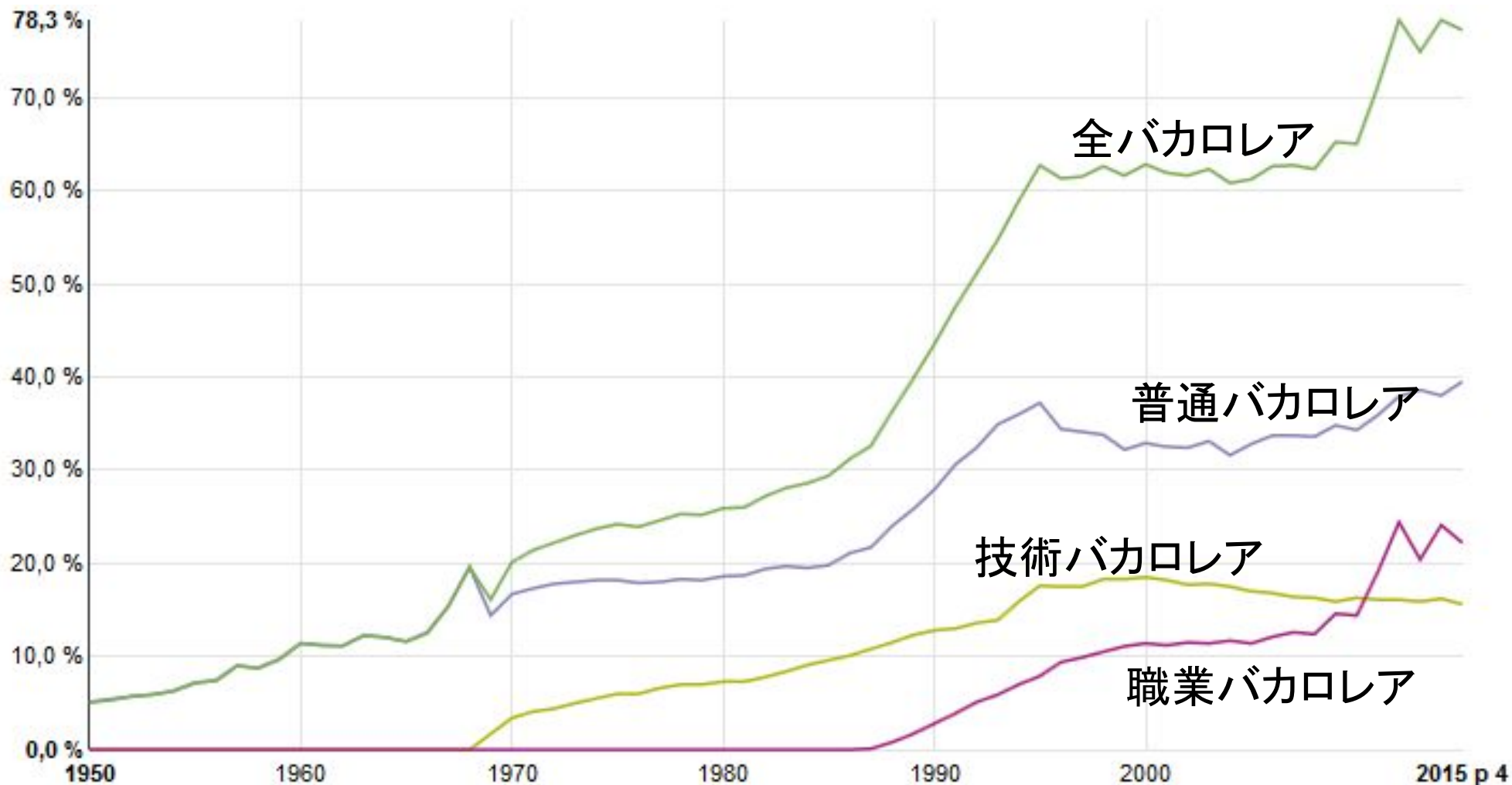
大学としての  
対応が困難



## バカロレア合格率の推移(バカロレア種別)

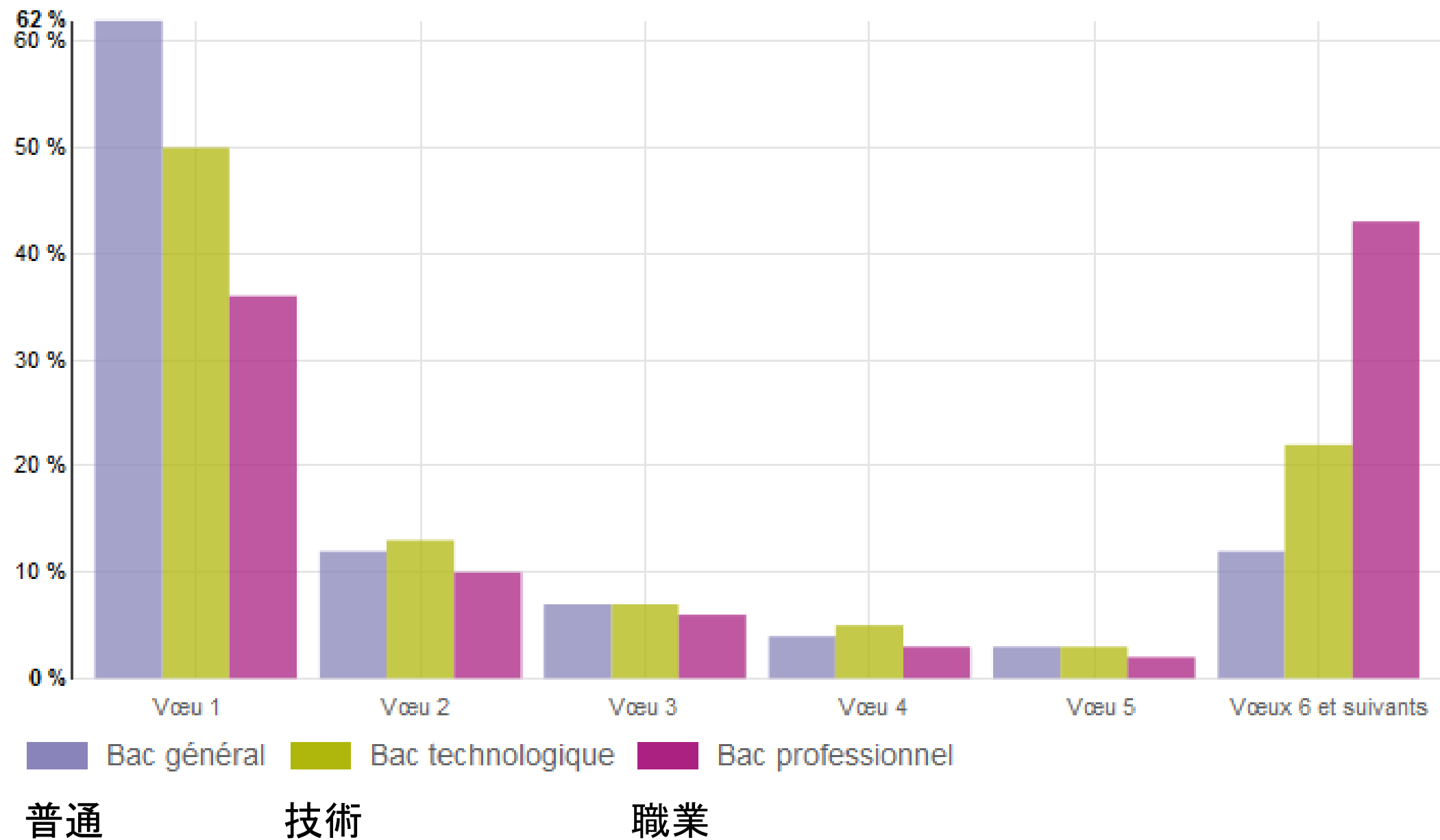
出典: L'état de l'Enseignement supérieur et de la Recherche en France (n°9 - Juin 2016)





## 進学世代におけるバカロレア保持率の推移

出典: L'état de l'Enseignement supérieur et de la Recherche en France (n°9 - Juin 2016)



## 志望校への入学許可率(志望順位別)

出典: L'état de l'Enseignement supérieur et de la Recherche en France (n°9 - Juin 2016)

- 大学教育についての学生の不満(学士課程3年)
  - 進路や就職先についての情報 51.9%
  - 講義内容についての情報 27.6%
  - 学生間の相互支援 27.7%
  - 講義の魅力 13.0%
  - 時間割 24.6%
  - 教員の対応状況 20.3%
  - 教授法の質 17.3%
  - 総合的評価 11.7%

### 3. 取られている対応策

- 進路振り分け制度の改善
  - 情報発信と高校との連携
  - 能動的進路選択 (orientation active)
  - 進路選択システム (APB) の整備
- 個別の学習支援 (tutorat)
- 学生情報の収集・分析
  - 学生生活情報室 (observatoire de la vie étudiante: OVE) の設置
- 教授法の改善
- “学生課程成功計画” (2007)
- 積極的是正措置 (大学以外の取組)

- 選抜に対する強い抵抗
  - 伝統的にタブー視 (cf. 1986年ドバケ法案)
  - 高校生・学生の強い反対
  - 高等教育・研究審議会 (CNESER) で重ねて否決
- 進路振り分け政策も「選抜」として批判
  - APB...「偽装された選抜 (sélection déguisée)」  
(Le Figaro Étudiant du 19 septembre 2016)
  - 能動的進路指導＝選抜の一形態
    - 「進路指導は登録時に行うべきものではない。対話  
が実施される条件が問題だ」(UNEF＝学生団体：  
EducPros.fr le 16 juin 2014)

- 最近は各方面で選抜が実践・議論
  - 副専攻 (double licence) 等で例外的に導入
  - 修士課程で議論
    - 裁判で登録を認めないのは違法との判断が続出
    - 2016年5月、政府は選抜可能な修士プログラムを政令で決定
  - 大統領選挙で複数の候補 (A. Juppé, N. Sarkozy, M. Le Pen) が言及
    - 去る9月29日、オランド大統領は選抜を否定 (同日付 L'Étudiant.fr)  
"Nous ne devons pas placer une sélection à l'entrée de l'université. Faire le choix de la démocratisation de l'enseignement supérieur, c'est placer le droit à la formation au cœur du pacte républicain."

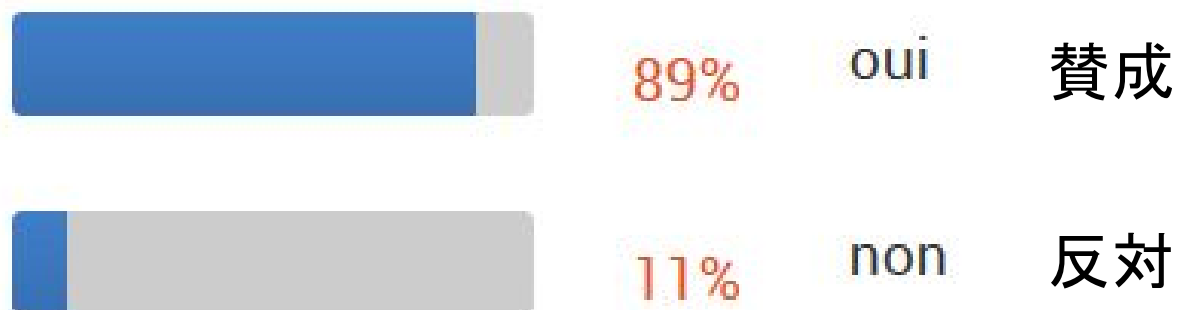
大学で選抜を行うべきではない。高等教育の民主化の選択をすることは、共和国としての協約の中心に教育への権利を位置付けることである。

# Etes-vous favorable à la sélection à l'université?

Par | Mis à jour le 20/09/2016 à 15:53 / Publié le 19/09/2016 à 10:42

**Le vote est clos. Vous avez été 23.198 participants.**

 23198 Votants



入試導入についての賛否  
2016年9月ル・フィガロ紙ネット調査: 投票数23,198

- “学生課程成功計画” (Plan pour la réussite en licence)
  - 学士課程における学習を改善するための総合的な支援事業
  - 活動内容
    - 学生の受入れの改善
    - 学習支援 (encadrement pédagogique) の充実
    - 困難な状況にある学生への支援
    - 教育の専門化 (professionnalisation)
    - 質保証・改善の取組み (démarche qualité)
  - 並行して、高等教育・研究省は、学士課程プログラム認証に関する省令を改正
    - 資質能力を基礎とする参照基準 (référentiels) を策定
    - 教授法革新を基準に含める



- 教授法の改善
  - 近年、改善のための教員研修 (formation pédagogique des enseignants) が拡大
  - ICTの活用の展開
  - 政府の取組の拡大
    - 2012年、革新的教育における先導的卓越事業 (IDEFI)
      - 2014年までに1,770の教育改善方策が実現(うち950がICT関連)
    - 2015年12月、高等教育・研究省の主導で、高等教育の教授法改革に関するシンポジウム開催
  - 外部資金を活用するなどして、各大学でも様々な活動が展開

- 教授法改善トップ10

(大学長会議シンポジウム「大学3.0: デジタル時代の新しい挑戦と新たな展開」、EducPros du 5 mai 2015)

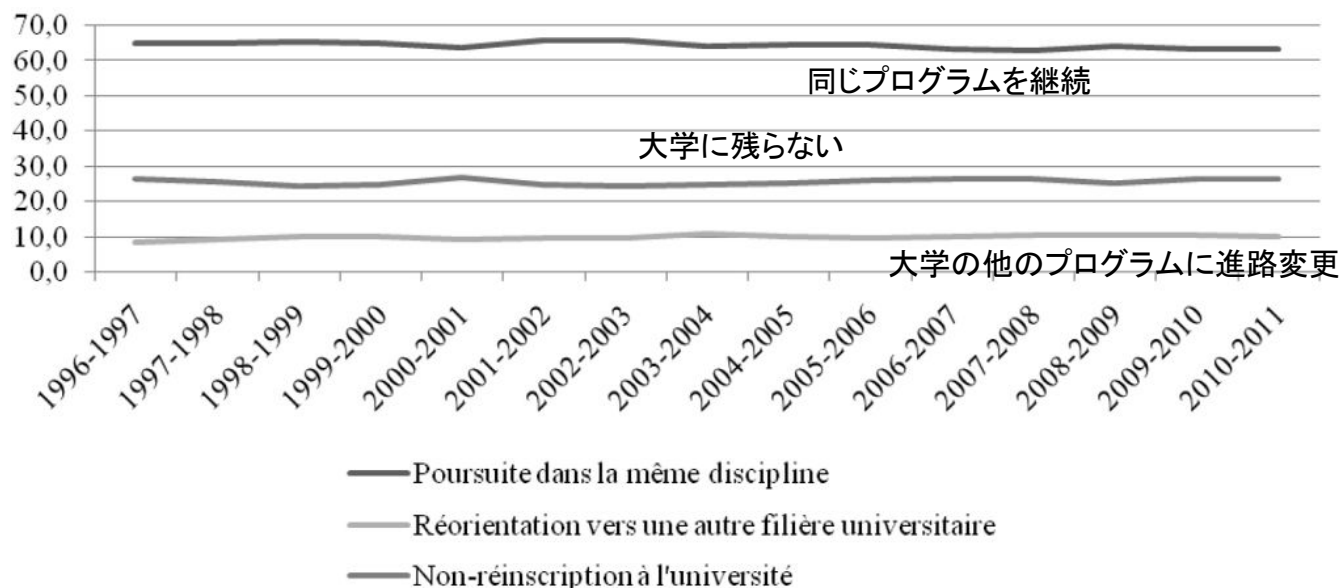
1. 反転授業
2. 双方向的な講義室
3. 制作ラボ (fablabs)
4. 学習ラボ (learning labs)
5. 学習デザイン (penser design)
6. 遠隔会議 (téléconférence)
7. 講義におけるtwitter
8. バーチャル現実 (réalité virtuelle) 又は増加された学習 (enseignement augmenté)
9. シリアスゲーム (serious games)
10. (医学)シミュレーション

- ストラスブール大学教授法開発・革新センター  
(Institut de développement et d'innovation pédagogiques) の例
  - 外部資金 (IDEX) を用いつつ 専門家 (Nicole Rege Colet) を迎えて、2013年に設置
  - 主な活動
    - 大学教育における教授実践に関する研修
    - 教授法改善の試みへの個々の教員への支援

- 教授法革新及び学生の学びへのその効果に関するアクション・リサーチの実施



## 4. 考察と示唆



- 「学業不振は大学教育の重要課題」は事実か？  
(R. Bodin)
  - 学業「放棄」の割合は数十年間大きな変化はない→大衆化とは関係が無い
  - この論説は、学生の多様な事情を反映していない
    - 「放棄」とされる者の多くは進路変更で、就職したり、大学外の機関で学習を続けたりしている→「放棄」ではない、学士課程は適切な進路に行くための課程として機能している
    - 実際に「放棄」したのは11%

- 不平等な進路選択システム (APB) (S. Orange)
  - 志望校選択に自律的な判断が求められるところ、労働者階級の子供にはそのような自律性がない
  - 従前の制度と異なって、APBは一つの受入れ校しか提示しない
    - 早期の進路選択が必要
    - 労働者階級の子供の多くは準備が不十分
- 大学教育には問題はない？  
R. Bodin & S. Orange (2013) *L'université n'est pas en crise* (大学は危機ではない). Éditions du Croquant.
  - 大学の教育改善を求める政策と齟齬がないか
  - 大学が問題化しなくてよいか
  - 問題でなければ、改善に誰が責任を持つのか

- その他の課題
  - 失敗したとされる学士課程成功計画
    - 学業不振者の割合は計画導入後も変わらない
    - “Le plan licence n’a servi rien (計画は何の役にも立たなかった)” (G. Fioraso: Le Progrès.fr, le 28 août 2012)
  - 限定的な教育改善活動
    - 取組が全学的には拡大してないことが多い
    - 「教学ガバナンス・マネジメント」の概念が欠如乃至希薄
    - 但し、ICTを用いた教育改善は多くの大学で積極的に取り組まれている
  - 教育改善や学習成果の保証を巡る諸問題
    - 科目間得点調整 (compensation)
    - あまり実施されていない学生による授業評価
    - 教員に支配的な研究重視の文化、それを支える教員評価制度

- 日本との比較
  - 進学者数の推移や高大接続の在り方など日本とは大きく異なる状況
    - 進学者が増加するフランス、減少する日本
    - 選抜のある日本、開放入学制のフランス
  - 教育改善の取組には少なからぬ共通点
    - 成果については比較研究が可能
    - 両国とも予算の制約が大きい
  - 学生の卒業については日仏教員間で大きな考え方の違い
    - 卒業させようとする日本、容易に学位を出さないフランス
    - 大学教育に関する考えの違いだけでなく、労働市場との接続の違いが反映

- 相違を踏まえて、フランスから何を学ぶか
  - 資格試験としてのバカロレアの在り方
  - ICTを活用した教授法改善の取組
  - 財源に限りがある中での改善の取組の在り方
  - 研究重視の文化と学びの改善の相克の克服
- 日本はどのような示唆をフランスに与え得るか
  - 選択問題の活用
  - 選抜制度の有効性とその課題
  - 授業改善や学習成果の保証に向けた取組
  - 教学マネジメント・ガバナンス
  - 「学生FD」など協働的な学生の参画の在り方
- 共同研究が期待される事柄(上記に加えて)
  - 政府の役割、学生の関わり方(高等教育行政や大学運営)